

研究課題名	肝胆膵疾患患者における新型コロナウイルス SARS-CoV-2 不顕性感染の頻度と病態に与える影響
研究の意義・目的	<p>2019～2020年にかけての新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行は、2019年11月に中国武漢市で原因不明のウイルス性肺炎として報告されて以降、武漢から中国大陸～世界に感染が拡がり、パンデミックを引き起こしました。</p> <p>一般に、COVID-19の診断は鼻咽頭拭い液を用いてPCR法によるウイルスの検出により行われますが、感染者の症状は軽症・中等症～重症（約20%）まで様々であり、症状のない感染者（不顕性感染）の頻度も明らかではありません（2020年4月23日、米国ニューヨーク州で発表された3,000人を対象とした抗体検査の陽性率は13.9%でした）。</p> <p>さらに肝胆膵疾患患者における新型コロナウイルスの不顕性感染の頻度も明らかではありません。肝胆膵疾患を有することにより、新型コロナウイルスに感染しやすくなるか、重症化しやすくなるか、感染することにより肝胆膵疾患の病態に影響を与えるかなど明らかにする必要があります。今回、肝胆膵疾患患者において新型コロナウイルスの不顕性感染の頻度を明らかにすることと、その不顕性感染が肝胆膵疾患の病態に与える影響などを明らかにすることを目的に研究を行います。</p>
研究を行う期間	倫理委員会承認後～2025年3月31日
研究協力をお願いしたい方（対象者）	2019年4月1日～2024年3月31日に大阪市立大学医学部附属病院の肝胆膵内科で、肝胆膵疾患の診断・治療のため受診・入院された方が対象となります。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	<p>過去にご協力いただいた研究（「肝臓病における炎症・線維化・発癌に関与する遺伝子の探索」承認番号1646）でご提供いただいた下記項目を本研究に使用させていただきます。</p> <p>試料：【血液】</p> <p>診療情報等：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 基本情報：病歴、診断名、年齢、性別、身長、体重、既往歴、嗜好（飲酒・喫煙）歴など 2) 血液生化学検査：一般肝機能（AST, ALT, γ-GTP, T-Bil）など 3) 画像検査所見：腹部超音波、胸腹CTなど
試料・情報の他機関への提供	この研究は大阪市立大学医学部附属病院のみで行い、他の施設に試料・情報は提供いたしません。
この研究を行っている共同研究機関	この研究は大阪市立大学医学部附属病院のみで行います。
試料・情報を管理する責任者	大阪市立大学大学院医学研究科 肝胆膵病態内科学 研究責任者：榎本大
本研究の利益相反	利益相反の状況については大阪市立大学利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力をしたくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。

連絡先

大阪市立大学大学院医学研究科 肝胆膵病態内科学

(担当者氏名) 榎本大

電話番号 : (06) 6645-2316